

第115回日本皮膚科学会総会
イブニングセミナー15

疥癬診療ガイドラインが推奨する
新しい疥癬治療
について

日時

2016年6月4日(土)
16:10~17:10

会場

第9会場 国立京都国際会館 1F
Room C-2

京都市左京区岩倉大鷲町422番地 TEL:075-705-1205

座長

石井 則久 先生

国立感染症研究所ハンセン病研究センター センター長

演者

谷口 裕子 先生

国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 皮膚科 部長

疥癬診療ガイドラインが推奨する 新しい疥癬治療について

谷口 裕子 先生

国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 皮膚科 部長

従来、疥癬の治療にはクロタミトン、安息香酸ベンジル、ガンマ-BHC（現在は使用禁止）、硫黄軟膏、ペルメトリン（個人輸入により使用）などの外用薬が用いられてきた。2006年に待望の内服薬イベルメクチン（ストロメクトール®錠）が疥癬に対し保険適用された。これは2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村 智先生が発見されたエバームクチン（アベルメクチン）の誘導体である。イベルメクチンにより、集団発生など、外用薬の全身塗布が困難な場面で治療者側の労力が軽減され、また患者側も全身塗布の手間や不快感から解放された。さらに2014年に毒性が低いピレスロイド系の外用薬フェノトリン（スミスリン®ローション）が保険適用となった。有効性の高い内服薬、外用薬がそろったところで、2015年10月疥癬診療ガイドライン（第3版）が刊行された。ガイドラインが推奨する新しい疥癬治療について報告する。

谷口 裕子 先生

略歴

1990年 東京医科歯科大学卒業
同大学皮膚科入局
1994年 同、助手
1995年 茅ヶ崎徳洲会総合病院 皮膚科医長
1997年 国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 皮膚科医長
2008年 同、部長

専門

アトピー性皮膚炎
動物性皮膚疾患